

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
 藤津農業指導者連絡協議会
 杵藤農林事務所

「稲作情報（第11号）、大豆作情報(第8号)」について（送付）。

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第11号）、大豆作情報(第8号)」を送付しますので、業務の参考にしてください。

気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
8月	3	27.7	29.7	2.1	32.9	34.5	1.6	24.0	25.6	1.6	28.6	45.0	157	33.1	34.7	105
	4	27.4	26.5	-0.8	32.6	30.0	-2.6	23.8	23.9	0.1	29.5	86.5	293	31.7	16.8	53

8月3半旬の気温は平年より2 高く推移した。降水量は平年比157%と多く、日照時間は平年並みであった。

8月4半旬の気温は平年並み。しかし、降水量は8月20日の降雨の影響で平年比293%と多く、日照時間についても晴れ間が少なかったため平年比53%と短く推移した。

1. 情報田の生育状況（調査日：8月20日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく (武雄市橘町)						出穂期は8月16日(平年より2日遅い)
ヒノヒカリ (白石町新明)	本年値	99.4	355	14.3	37.1	葉齢は平年差なし。草丈は平年より高く、茎数は平年よりかなり少ない。葉色は平年よりかなり濃い。幼穂長は208mm 出穂期は8月24日頃の予想 止葉が抽出されました
	平年値	87.4	439	14.3	33.2	
	平年比(差)	113%	81%	±0	+3.9	
さがびより (武雄市橘町)	本年値	82.6	240	13.6	35.0	葉齢、草丈、葉色は平年並み。茎数は平年よりかなり少ない。幼穂長は118mm 止葉が抽出中です
	平年値	83.4	404	13.9	34.7	
	平年比(差)	99%	59%	-0.3	+0.3	

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

2. 一般田の生育状況及び今後の管理

1) 夢しずく

現在、穂揃い期～乳熟期となっております。登熟期間の高温乾燥で、心白・乳白等が発生し品質の低下にもつながるため田面が乾燥しないよう、間断灌水に努めてください。

なお、情報田の出穂期は8月16日でした（移植日6月16日）

2) ヒノヒカリ・さがびより

現在、穂ばらみ期であり、ヒノヒカリは止葉が抽出済みで、さがびよりは止葉が抽出中です。ヒノヒカリは8月24～25日頃に出穂する見込みです。

- 穂ばらみ期～穂揃期は、**稲が最も水を要求する時期**ですので、田面が乾燥しないよう、浅水管理を行いましょう。

3) 病害虫

いもち病

病斑発生株は、穂いもちの発生を防ぐために穂ばらみ期防除を実施してください。穂ばらみ期の防除以降も症状が広がっている場合は、臨機防除を行ってください。

紋枯病

7月下旬より発生が散見される圃場があります。上位葉へ進展すると、登熟収量と品質に影響を及ぼしたり、倒伏を助長します。紋枯病菌は風通しの悪い圃場条件や、高温で多湿な気象条件を好むので、発生が多い圃場では薬剤防除に努めましょう。

ウンカ類

本年はトビイロウンカの飛来量が多く、今後、普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れが高まっています。トビイロウンカと競合関係にあるセジロウンカの飛来量が少なく、今後の気温は平年並か高いと予想され、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まっていることから、今後の本田防除の適切な実施が極めて重要です。図1を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

8/20に佐城管内にて多発生した圃場が見られたようです。局所的ではありますが、引き続き注意してください。

コブノメイガ

本種に対しては、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）の防除効果が最も高いです。田植え時期、地域、水稻の品種等の違いによってコブノメイガの発生量は異なる（晩生品種で葉色の濃い圃場で発生が多くなる）ので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで出穂期に被害葉が20%を超える恐れがある場合には、防除対策を講じてください。

カメムシ類

出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長します。すでに出穂10日前を過ぎていきますので、畦畔の除草は避けてください。発生が懸念される早生品種および山麓部や河川敷付近等、例年発生の多い圃場では防除の徹底に努めてください。



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第5版、2019年8月1日作成)

- 6月6～7日頃(図では6月6日)、6月30日頃、7月10～11日頃(図では7月10日)、7月21日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と佐賀市川副町の気温データ(第4版では7月22日までは実測値で以降は平年値、第5版では7月31日までは実測値で以降は平年値)を基に作成した。その結果、第5版は第4版と比べ、各飛来虫の、その後の発生時期は約0～1日遅くなったが、全体としてほとんど変わらない。
- 普通期水稲には、6月6日飛来虫は定着していないと考えられる。この例のように、各飛来波に対する防除の重要度は、田植え時期によって異なる。
- 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。複数の飛来波の幼虫を、より効率的に防除可能と考えられる時期として「6/6、6/30、7/10飛来波を対象とした場合を実線赤枠(①、③)」「6/6、7/10、7/21飛来波を対象とした場合を点線青枠(②、④)」で示した。さらに、全ての飛来波を対象とした場合の体系防除の例(1～3)を、本図の右側に示した。
- 田植え時期に加え、地域、水稲の品種、これまでの防除歴等の違いによってウンカの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する。最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

4. 大豆作情報

1) 生育状況

播種時期毎の生育状況は、7月上旬播きで出芽揃いが良好であった圃場では間もなく開花期を迎え、7月中下旬播きの圃場では本葉5～8葉期となっています。播種時期によって生育差があるため、圃場ごとに生育ステージを確認し、適期管理に努めてください。

2) 今後の管理

(1) 病害虫防除

ハスモンヨトウ

- ・農業技術防除センターの8月下旬予想発生量では、現在の発生量は少ないものの今後1か月の気温は高い予想となっており**平年よりやや多い(前年並)**となっています。
- ・白変葉が散見された頃が防除適期であるため、遅れずに薬剤防除を行ってください。
- ・薬剤の防除効果は、粉剤より液剤の方が高く、今後は大豆の生育量が大きくなるにつれ、茎葉にまんべんなく薬剤が付着するように丁寧な散布を心がけましょう。

カメムシ類

- ・発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)と予想されております。ハスモンヨトウ同様、**多発生**の条件となっているため各圃場でカメムシ類の発生状況を確認し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行ってください。

(2) 肥培管理

- ・7月下旬以降の遅播き圃場で、**葉色の淡い圃場では**、開花期以降に根粒菌から窒素供給が不足し、莢へ十分に養分が供給できず、収量低下に繋がる恐れがあります。生育が極端に劣る圃場では表1を参考に追肥又は花肥(窒素で8kg/10a)を施用しましょう。(施用効果は、追肥としては、できるだけ早目に実施することが有効)
- ・また、追肥を施用後は肥料効率を高めるために、可能であれば開花期前までに、培土等を実施してください。
- ・ただし、培土は、開花期を迎えている場合は実施しないでください。根の断根による落花になりやすい。

表1. 花肥の目安(大豆の葉色が淡い圃場)

播種期	7月下旬播き
花肥の時期 (開花終期～着莢期)	9/1～9/10頃
花肥の施用量 (kg/10a)	硫安：40kg/10a もしくは 尿素：20kg/10a (窒素で8kg/10a)

注1) 肥料ヤケを防ぐため、葉が濡れていないのを確認して施用してください。

注2) 基肥(化成肥料)や追肥を施用した圃場では、根粒菌からの窒素供給量が減りますので必ず「花肥」を施用してください。